

情報システム再構築によるBPRビジネス革新コンサルティング

ユビキタス社会にはユビキタス社会としてのIT戦略があります。古い武器で大競争時代を勝ち抜けるでしょうか。

情報システムには三つの段階がある

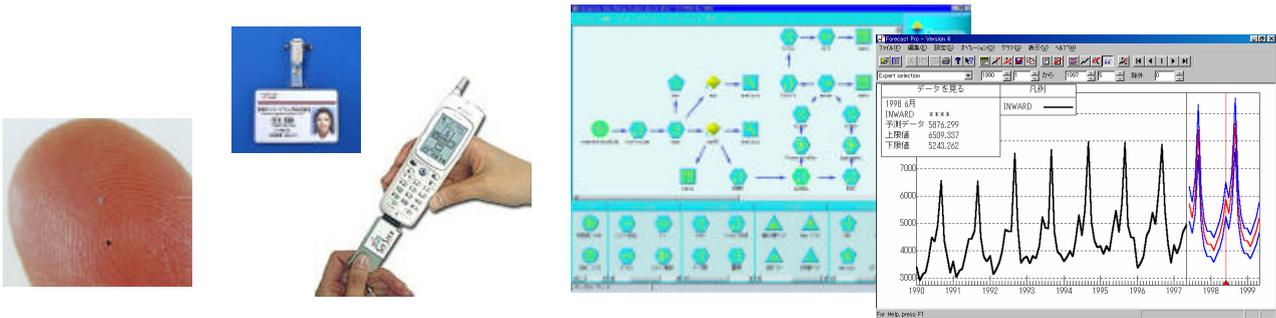
情報システムには三つの段階があります。第一段階は「情報の転記」、第二段階は「情報の補填」、第三段階は「情報の生成」です。多くの情報システムでは第一段階ですら部分的な適用にとどまっています。「情報の転記」が浸透すればどこかで誰かが作成した情報は共有され二重に作成されることはありません。注文データから請求データを作成するなどがこれにあたります。第二段階の「情報の補填」では情報の重要部分が与えられれば完成させることができます。商品マスタや顧客マスタといったマスタファイル化がこれにあたります。そして第三段階の「情報の生成」では情報の断片さえ入手できれば元の情報を復元することができます。購買データから顧客の好みを推測したり販売実績から将来の需要予測を行うことがこれにあたります。競争優位性を獲得している優良企業の多くは「情報の転記」や「情報の補填」段階をしっかりと実現した上で第三段階である「情報の生成」にまで足を踏み込んでいるのです。

ビジネス革新の成否は現状分析の質によって決まる

ERPやSCMなど高額な情報システムパッケージが目立っています。しかし、ちょっと待ってください。上等な家に住んで上等な服を着て上等な食事をすればそれで幸せになれるのでしょうか？私達にはどうもそうは思えません。人にはそれぞれ価値観があるように企業にも異なる価値観があるはずで、我々の会社はどこに向かっていきたいのか、どんな会社になりたいのか、そして今その夢に対してどのような状態にあるのか、そうしたことをしっかりと認識しなければどんなに高い買い物をして幸せはやってきません。自分たちの会社の本質はいったい何なのか。大事にすべきことは何か。強化すべき業務、そうでない業務は何なのか。米国企業が復活したのは「ザ・ゴール」で有名になったゴールド・ラッド博士のTOC制約条件理論によってまじめに自分たちにとっての真の問題について十分すぎるほど議論したからです。真の問題を知ることができれば必要な処方箋が何なのかが見えてくるのです。

ユビキタス社会が情報システムの常識を変える

ごま粒大の無線ICタグを商品や伝票、設備、倉庫、そして人間につけることができれば「情報の転記」や「情報の補填」、「情報の生成」が指す意味も変わってくると思われます。必要な情報はいつでもどこからでも飛んでくるのです。インターネットはブロードバンド化し常時接続化していくとともに、携帯電話やPDAなどモバイル端末もまた年々機能が豊富になってきています。情報システムの在り方そのものについてユビキタス社会を前提として考えなければならない時がきているのです。無線ICタグや携帯電話などから送られてくる情報からどのようなサービスを駆動させるのかイベントドリブンなビジネス設計がこれからの情報システムに必要なのです。データマイニングなど意思決定エンジンを駆使して最適な行動を選択しワークフローで即応する環境適合型ビジネスモデルこそ21世紀の情報システムだといえるでしょう。



業務分掌表から始まり業務分掌表に終わる

BPRビジネス革新を進めるために必要となるのは現状における組織や業務についての診察です。単に部署名が入った組織図ではなく誰が何をやらないといけないのかを示した業務分掌表の作成こそ重要なのです。業務分掌表の作成を通じて組織の目的や権限、責任を明確にし、どのような情報や機能が必要となっているのかモデリングしていくことができます。その結果、情報システムの仕様が定義されていくと同時により望ましい業務分掌表ができあがるのです。

杉浦システムコンサルティング, Inc

〒 600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93 京都リサーチパーク6 号館401 号

TEL 075 (321) 5528 FAX 075 (315) 8497

Email sugiura@mbox.kyoto-inet.or.jp HomePage <http://www.st.rim.or.jp/> ryoma